

看護部だより

ひまわり



2011年1月

発行責任者：山口圭子

Vol.10

●白で、スタート！ジャンプ！

看護部長：関口了子

明けましておめでとうございます。

年末から元旦にかけて一日中雪が降り続け、北国のような新年を迎えた。雪のため病院に宿泊したり、時間をかけて通勤して勤務していただいた皆様、本当にありがとうございました。

今年は、外来中庭の正月飾りができなかつたので気になっていたのですが、かわりに雪が真っ白に飾ってくれたようです。天の助けだと思って感謝しました。

元日に雪で真っ白の庭をみていて子供の頃を思い出しました。いつのころまで続いているのか覚えていませんが、郷里の都城では正月を迎える準備として家々の庭に白いシラスを撒いていました。大晦日になるとシラスを移動販売車で売りに来ました。シラスを撒くと庭は真っ白になってすぐがしく、お正月だ！と感じたものです。

都城は、旧島津藩なので風習や言葉は鹿児島と同じです。しかし、シラスを撒く風習が鹿児島や川内でもあったのかは分かりません。何故シラスを撒いていたのかも分かりませんが、白色はどんな色にも変えることができるので、新しい年の初めを白無垢からスタートさせる意味合いがあったのかなと思います。

今年のように正月に雪が積もるとはかぎらないので、シラス台地の鹿児島ではシラスを撒いて新しい年を迎えたのでしょうか？シラスではなく白無垢の雪でスタートした兎年の今年は、いろいろなことにチャレンジすると叶えられる年ではないかと感じています。

当院でも新年早々に認定看護師への道を目標に行動を開始した人達がいます。「夢は見るものでなく、実現させるものだ」といわれます。認定看護師やその他、皆様それぞれの目標にむけて力強くジャンプしてみて下さい。

そして、“和”大切にしながら病院全体の医療の質向上にむけた役割がとれるよう皆で協力ていきましょう！ 今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



2011年の新春は日南で迎え、素晴らしい初日の出にみんなの幸せを願いました。

1月9日には指宿での菜の花マラソンに応援で参加(?)しました。2万五千人が寒さと痛さに耐えて走り、完走された人もそうでない人も一緒に満足げでした。当院からも参加された方がおられると思いますが、やりたいことを見つけ、挑戦している人の表情はとても素敵だなと思いました。それぞれがいい顔で過ごしたいですね。それはきっと患者さんへのケアにも生かされ、「感動を分かち合える」支援につながると思います。

副看護部長：緒方くみ子

“スキルだけでは満足しない

やさしさだけでは救えない” という言葉があります。

スキルも知識もやさしさも持ち合わせて、はじめて専門職としての看護になるのでしょう。一人一人が誇りを持って、充実した一年にしていきましょう！

教育委員会 研修レポート

STARTING

SP(模擬患者)対応研修 11/11(木)

SP対応研修では2つの事例（術後疼痛があつて動きたがらない患者、大腸癌の術後で予後・治療に対して不安を訴える患者）を通して看護師としてどの様に対応していったらよいかを考えました。

演技終了時には「にこにこしていて痛みが和らいだ」「優しい印象を受けた」「具体的な事を教えてもらって安心した」など良いお言葉を頂いた一方で、「〇〇さんと名前で呼んでほしかった」「こちらから話をしないと間がもたない」「コミュニケーションをとるために環境調整ができていない」などの厳しいお言葉も頂きました。

今回の研修はこれまでのコミュニケーション技術を振り返り、看護者としてどの様に対応していったらよいかを考える良い機会になったのではないかと思います。（木村）

KYT 11/30(火) 講師：医療安全管理責任者 別府師長

医療事故への予防対策や看護師の法的責任などについての講義の後グループワークを行いました。

絵を見ながらどのような危険があるのかを予測し、予測された危険が起らぬいためにはどのような対応が必要かを考えました。メンバーが事前に撮影していた「危険だと思われる場面」の写真に対しても同様にグループワークを行いました。その中で立てた対策を今後実践していく予定ですのでみなさんのご協力をお願いします。（木村）



WALKING

プリセプターシップ

12/2(木) 講師：瀬戸口副主任



前半に今年1年間受講してきた研修内容を振り返りましたが、受講した内容を忘れている受講生も見られました。後半はフィッシュ形式にてどのようなプリセプターになりたいか、プリセプティーを迎えるにはどのような工夫をしたら良いのかなど、各グループに分かれ模造紙一面へカラフルに記入されました。模造紙は2月いっぱいまで管理棟2階女子職員更衣室前に張り出してありますので、皆さん是非一度ご覧になってみてください。次年度は今回の受講生がプリセプターとなり、新人指導が開始される予定です。はじめての新人指導で不安も大きいと思います。皆さん暖かいご指導・応援よろしくお願ひいたします。（西野）

RUNNING

エルダーの役割

12/9(木) 講師：松元主任

ランニング研修のメンバーは現在プリセプターをしている人がほとんどです。新人看護師研修制度やプリセプターの役割について更に理解を深め、エルダーとしての役割を学ぶ事を目的とした研修でした。グループワークを通してエルダーについて考え、どのようなエルダーになりたいかそれぞれのエルダー像をまとめました。

人を育てるということはとても難しいことですが、看護の楽しさや奥深さを伝える事ができるような指導をするにはどうしたらよいか改めて考えさせられた研修でした。（木村）





看護研究発表会

12/7(火)

これまで土曜日の午後から行っていましたが、今回は平日の17:30開始とし、軽食の準備も行いました。日時の変更がよかったです。参加人数は128人と例年の3倍になりました。

発表の内容も日頃自分たちが行っているケアに密着したものが多くの関心の高いものでした。データーに裏付けされたことでさらに説得力がありました。これまで量的研究が多い中で質的研究への取り組みがあり、患者ひとりひとりとの関わりでの分析は大変な作業であったと思います。

これまで主任が行っていた講評を今回はホップ・ステップ受講レベルのスタッフで行いました。講評内容では学んだことが生かされており、成長に頼もしさを感じました。研究は大変な作業であったと思います。これで終わりではなく、他の人のために看護の質をあげるために継続して取り組んでいけたらと思います。(瀬戸口)



一人でも多くの看護師が職場復帰していただくために ～看護職再就業支援研修会開催～

11/9, 11/25

医療の高度化に伴い看護師は平成23年には5,600人不足すると言われています。毎年5万人の看護職が誕生しますが10万人が離職する現状にあります。少しでも看護師の資格を持つ人が働きやすい環境を作っていくことが大切です。22年度も11月に再就業支援研修会を開催しセミナーと病院体験に日々7名の参加がありました。緊急時の対応、感染管理、医療安全等最新の医療情勢を含めて講義や体験で理解していただけたと思います。研修後のアンケートでは「職場への復帰に不安を感じていたが、意欲が出てきました」「子育ても仕事もやっていきたいと思えるようになりました」という意見があり、一人でも多くの方が看護師として復帰していただきたいと思います。ご協力いただいた病棟・講師の方に感謝致します。



副看護部長:緒方くみ子

「日本医療マネジメント学会第9回九州・山口連合大会」に出席して

4階東病棟:小牧加代子

H22年11月5~6日の2日間、佐賀市の文化会館で行われた学会に出席しました。学会のテーマであるクリティカルパス、医療安全病院経営、地域医療連携、教育・研修などにおいて重要となっているITを取り上げ、今回のテーマは、「ITによる医療の質の検証」ということで、当院においても電子カルテの導入、院内をつなぐPC(My Web)の活用、地域連携パスの運用など関連することもあり、興味を持って参加しました。シンポジウム、教育講演、ランチョンセミナーは、全国の各分野の名高い講師陣や各企業の講演を聞くことができ、とても有意義でした。

大学病院と地域病院とのネットワークを通じた地域連携パスの活用を積極的に取り組んでいる県や地方自治体がある一方で、地域病院や地域住民の反応は鈍く、パスの有用性の低さが浮き彫りになり、受容性に格差が生じているのが現状であると報告がされました。

IT化が進む医療業界の中で、私たち看護師は個人情報を厳守しつつ、患者サイドに立った看護ケアの充実を、さらに目指していくかなければならないと感じた学会でした。

また、当院でも学会出題を積極的に行い、発表する機会や学会へ参加する機会を持つことで、職員のスキルアップも図れるのではないかと考えます。



私の自慢

出会いに感謝

4階東病棟 柏木裕美さん

気がつけば24歳。地元での幼少時代、高校時代、県外に出た大学時代、そして社会人となったこの環境。自分自身のこれまでを振り返ると、素晴らしい人や環境に恵まれているなと感じます。

思い出深い大学時代。年齢を超えて沢山の人と話をし、関わることが新しい経験であり、その経験から考えさせられ、出会いに感謝する気持ちを感じるようになりました。心から語り合える友人、愉快な先輩がいて、社会の教訓を頂戴したアルバイト先の社長、どんなにうるさかろうと温かく迎えてくれ、話を聞いてくれる家族の存在。みんなに支えられて今の自分があると感じます。とても大切な存在であり、感謝しています。

そしてこれまでめぐり会ってきた人に感謝できることが、また新しい出会いとして今の職場、スタッフ、上司、友人を引き寄せてくれたのかなと感じます。

職場でも迷惑ばかりかけ、厚くサポートしていただいていると感じています。感謝の気持ちを忘れず、感謝を言葉や態度で返していくよう日々励んでいきたいと思います。

パート2

私の自慢

回復期リハビリテーション病棟
瀬戸口久美子さん

マイブーム

好きで気持ちがスッキリすることがあります。それはひとり息子の野球の応援です。頭は今ひとつですが、野球をしているときにはかっこいい。センター・打順4番。先日夜勤明けで応援に行った時、野球場を探すのに時間がかかってしまい着いたときには最終回の表で敵の攻撃、父兄の応援はお葬式のようで負けているのが見てわかりました。追加点が入り2対0で裏となり息子のチームの攻撃。打順は3番からヒットで出塁し息子の打順。ノーアウトの絶好のチャンス。応援に熱が入ります。雅哉行けー、行けるぞ・・・泮-ン☆走れ一走れ・・・見事ランニングホームラン!それはそれはすっきりしました。その後もヒットは続き勝利となり、息子は一躍ヒーローでした。以上息子自慢になってしまいました。

休みの過ごし方を皆さんどうされています?この寒い季節は家でぬくぬくするのもいいですが、貸切風呂に入っておいしいものを食べるのもお勧めですよ。宮之城ですと、「手塚旅館」「玉の湯」がおすすめです。伊集院の「花水木」も口コミミランキング総合一位になっておりとても良いです。ただ露天風呂なのでこの季節には少し寒いかもしれません。お風呂の後は売店でジェラートがおいしいですよ。気になって、作っているお店まで行ってジェラートを頂きました。雰囲気も良いので暖かくなったらぜひ行ってみてください。他にお勧めの家族風呂は・・・・貸切風呂の情報を聞いてみたい人は個別にどうぞ。

伝達研修のお知らせ

*日時;3月4日(金)17:30~18:30
*場所;2階 会議室
*プログラム 鹿児島県糖尿病臨床技能向上研修
(3西・濱田知美 回復リハビリ・中屋洋子)
実習指導者講習会(4西・切通智美)

編集後記

「本当の患者体験 part2」

約3ヶ月の休職中に手術を受け、リハビリの日々を過ごしました。痛みのないこと、背中を伸ばしてまっすぐ立てること、杖なしで歩けること…毎日に新たな発見や驚きがありました。“正しい姿勢で歩く”って結構難しい!大殿筋は身体の中でも衰えやすい筋肉で30代から始まると言われています。皆さんも“美尻”を目指すなら、普段の生活(家事する際の姿勢など)や歩き方を意識することが必要ですよ。

また、患者心理において、調子が悪いと何がいけなかつたのかな?とか、症状の変化に一喜一憂してしまいます。皆さんには、患者さんのちょっとした変化に気づいて、一緒に喜んだり、心配な気持ちをじっくり聴いてほしいなと思います。